

H30年度執行分 地方創生推進交付金活用事業実績報告

事業名 (事業期間)	事業 開始 年度	申請 区分	事業計画	A.計画額 (交付額)	B.実績額 (交付額)	C.差額 (交付額)	重要業績評価指標 (KPI)	当初値	単位	1年目	2年目	3年目	最終目標値	30年度の事業結果及び今後の方針	担当課
										上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績			
1 ラムサール条約湿地登録「渡良瀬遊水地」を活用した地域振興事業 (平成28～平成30年度)	H28	単独	事業期間の最終年度として、エコミュージアムの整備を進めるとともに、湿地面積の拡大に伴う生き物調査の実施、野鳥飛来数調査事業、ヨシ舟乗船体験等による地域への経済効果等事業効果を測定し、将来にわたって継続可能な事業体制を構築する。ホンモロコ・ナマズの販路拡大等、さらなる増産に向けた体制を整備する。  【主な内容】 ・渡良瀬遊水地エコミュージアム化事業 ・コウノトリ採餌環境、営業環境整備推進事業 ・渡良瀬遊水地魅力発信事業 ・ホンモロコ・ナマズ養殖(ブランド化)事業 ・野鳥観察小屋新設、既存ヨシズ交換	11220 (5,610)	1,298 (649)	9,922 (4,961)	渡良瀬遊水地・周辺地区来訪者数	20,000	人	22,000	24,000	26,000	26,000	平成29年度に策定した観光地化推進5年計画をもとに、渡良瀬遊水地への誘客強化のため、観光地化推進事業を推進する。 また、コウノトリが、現在、渡良瀬遊水地に滞在していることから、採餌環境の整備に向けた調査等を実施するとともに、採餌環境及び営業環境に配慮したエコミュージアムの環境整備についても、関係機関と調整しながら実施していく。 また、ラムサール条約湿地周辺で、環境にやさしい地域産品(ふゆみずたんぼ米、ホンモロコ・ナマズ)の生産を拡大するとともに、ブランド化し販売することで、販路を拡大し地域の振興を図る。	建設政策課 農政課 渡良瀬遊水地ラムサール推進課
							ホンモロコ漁獲量	540	kg	900	1,080	1,260	1,440		
										22,821	21,997	22,000			
										568	748	573			
2 新幹線駅を軸とした“移住・定住促進”広域連携プロモーション事業 (平成28～平成30年度)	H28	広域連携	参加者へのアンケートを実施。 地域の魅力や移住・定住に関する情報発信やプロモーション活動を行うNPO団体の設立に向けた準備を進める。 栃木県を対象としたデスティネーションキャンペーン(DC)に当たることから、JRとの連携、協力を密接に行い、栃木県との連携も図りながら、多くの駅構内や電車内での移住・定住等に関するPRを行い、交流人口及び移住・定住人口を増やす。  【主な事業】 ・那須塩原市・小山市連携PR事業 (宣伝広告、専用WEBサイトの運営、那須塩原駅、小山市、大宮駅でのイベント開催) ・UIターン促進事業 (東京都内でのふるさと交流会、UIターン相談会の実施、就職・転職サイトと連携したPR) ・子育て世代移住促進事業 (新幹線を利用し両市を巡る移住体験ツアーの実施、ママ向け情報誌・住宅メーカー等と連携したPR)	14250 (7,125)	14235 (7,117)	16 (8)	・生産年齢人口の増加率	-2.71	%		-0.21	2.29	+2.29	3カ年事業の最終年度として、情報発信、移住希望者(検討者)とのつながりを持つための施策を実施した。 具体的には、移住・定住促進プロモーション動画の制作、WEB・SNS等による情報発信、東京都内での交流イベント・移住セミナー、両市での移住体験ツアー開催、新幹線駅を活用した移住・定住促進の足掛かりとなる東京圏の企業の調査・両市のPRを実施した。  今後についても、継続的にプロモーション活動を実施していく。	工業振興課 秘書広報局
							・転入超過者数	+377	人		424	472	472		
							・新幹線駅の乗客数(1日平均)	5,048	人		5,174	5,300	5,300		
							※小山市単独の目標値				5,015	5,080	5,097		
3 ツール・ド・とちぎを核とした地方創生推進事業 (平成29～平成31年度)	H29	広域連携	・大会の企画・運営に対する協力、地元まちづくり団体等との調整 ・地域おこし協力隊等と連携した地域資源の発掘、磨き上げ ・地域の魅力発掘・発信、観光誘客・交流人口の拡大施策の実施 ・地元でのサイクルイベントの実施、レンタサイクル等の充実 ・サイクリストをはじめとした観光客等の通年での受入 ・おもてなしブース設営・広報物制作費用 ・ボランティアグッズ制作費用 など	700 (350)	700 (350)	0 (0)	・観光入込客数 《現況値》320万人(H27年度)	320	万人	410	450	500	500	県と連携し今後も進めていく。 スタート・ゴール地点になった場合、更に魅力的なブースやイベントになるよう検討していく。	生涯スポーツ課
										343	338				

事業名 (事業期間)	事業 開始 年度	申請 区分	事業計画	A.計画額 (交付額)	B.実績額 (交付額)	C.差額 (交付額)	重要業績評価指標 (KPI)	当初値	単位	1年目	2年目	3年目	最終目標値	30年度の事業結果及び今後の方針	担当課
										上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績			
4 「桑・蚕・繭・紬・和装・和食」地域資源で紡ぐ「日本の伝統を生かした総活躍のまち」づくり事業 (平成29～平成31年度)	H29	単独	<p>桑の木の植栽をはじめ、収穫した桑の実、桑の葉を利用した商品の開発及び生産環境を整える。さらに、「本場結城紬」産業の振興のため、産地としての特徴を生かして交流人口の拡大を図ることにより、桑加工商品や本場結城紬の販売拡大につなげる。</p> <p>「高椅神社」が、全国でも特に珍しい料理の神様を祀る神社であり、日本古来の伝統である和食文化と関係が深いことに着目した「和装・和食文化イベント」を開催し、桑・絹地区の地域資源のブランド化による全国発信や販路拡大、地域経済の活性化を図る。</p> <p>・新たな需要に対応するための耕作放棄地等を活用した桑の木の増殖事業 ・桑の葉の商品化に不可欠な原料化のための機材・導入支援事業 ・成分分析調査、新商品企画・開発及びPR・販路開拓支援事業 ・福祉施設との連携した商品化、加工・生産指導／真綿かけ・糸つむぎ等結城紬制作指導 ・地元生産者や養蚕関係者による技術指導等支援活動 ・「和装・和食文化イベント」開催</p>	25,000 (12,500)	19,894 (9,947)	438 (219)	・商品の総売上高	2,620	千円	3,620	4,800	6,000	6,000	原料となる桑の木の増殖に取り組み、商品開発及び生産環境を整え、次年度以降の本格的な事業展開につなげる。	農政課
										4,055	6,563				
							・当事業に携わる障がい者等の就労者延人数	0	人	6	6	12	12	全国でも特に珍しい料理の神様を祀る「高椅神社」において「和装・和食サミット」を31年5月に開催し、桑・絹地区の地域資源である桑加工商品や本場結城紬の全国発信や販路拡大、地域経済の活性化を図る。	
										13	12				
・当事業による耕作放棄地解消面積	0	ha	0.6	1.3	2.0	2									
			0.0	0.0											
・開発した加工商品数	16	品目	16	23	30	30									
			22	32											
5 小山市のブランドの「はとむぎ」の健康効能を活かした健康長寿のまちづくり事業	H30	広域連携	<p>はとむぎの認知度向上、利用拡大に向けた取組の検討を行う。</p> <p>「はとむぎマイスター」「食生活改善推進員」による健康料理教室の開催や、おやま健康料理コンクールにおける新しいはとむぎ料理の飲食店・企業向け募集、イベントのPRコーナー設置等を実施することにより、はとむぎの使用を促進するとともに、企業向け食育講演会を開催し、効能や魅力を広く内外にPRする。また、はとむぎを使用した新メニュー開発のためのアイデア等、開発の素材を収集する。</p> <p>・はとむぎを活用した料理教室 ・普及啓発活動 (1)健康長寿はとむぎ100歳を目指す講演会・シンポジウム(実証研究最終報告会) (2)おやま健康料理コンクール ・はとむぎメニュー開発事業</p>	5850 (2,925)	5,412 (2,706)	438 (219)	はとむぎ作付面積の拡大	80	ha	80	85	90	90	はとむぎの恒常性について実証研究を行い、健康効能があることが実証され、講演会の開催により普及啓発を行った。今後は、飲食店・事業者と協働で新メニュー開発を行うとともに、機能性表示食品取得に向け、追加調査およびマーケティング戦略を立案し、販売拡大を図る。	健康増進課
										80					
							はとむぎ新製品の総売上額	0	千円	500	1,500	3,000	3,000		
										0					
							はとむぎを扱う店舗数	1	件	4	10	20	20		
										1					
新はとむぎ料理提供事業所数	0	件	4	10	20	20									
			0												
6 地域の活力創出・経済活性化に資する公共交通利用促進プロジェクト	H30	単独	<p>①渡良瀬遊水地観光地化推進5カ年計画(エコアグリツーリズム)推進のため新路線整備 ②おーパスのICT化事業・新路線含むバス10台の運行状況及び乗降客数調査、データ解析準備 ③モビリティマネジメント事業の実施:公共交通利用の呼びかけ及びアンケート等による公共交通利用誘導</p> <p>・新規路線開設準備(意向調査、路線図、チラシ) ・バス運行状況調査及びデータ解析 ・乗降状況調査及びデータ解析 ・モビリティマネジメント ・車両リース(1台)</p>	28,694 (14,347)	20,053 (10,027)	8641 (4320)	コミュニティバス(間々田-野木-渡良瀬遊水地路線)利用者数	0	人	0	18,000	20,000	20,000	①広域公営バス「渡良瀬ライン」を3月13日に前倒しし運行を開始した。 ②バスロケーションシステムについては、市民に対しバスの運行位置の情報提供を開始した。 ③モビリティ・マネジメントについては路線図・時刻表、動機づけ冊子の配布及びPRを行った結果、路線バスの利用者は前年比約5万人増の713,403人、サポーター・バス停オーナーは前年比40万円増の150万円となった。	都市計画課
										245					
							コミュニティバスを利用した渡良瀬遊水地への来場者数	0	人	0	500	600	600		
										50					
							間々田-野木-渡良瀬遊水地路線運行収入	0	千円	0	1,800	2,000	2,000	今後は、①「渡良瀬ライン」については30年度運行に当たっての課題を解決するとともにPRによる利用者の増を目指す。 ②バスロケーションシステムについては運行状況及び乗降状況のデータを蓄積し、データに基づいた路線ダイヤの最適化を行う。 ③モビリティ・マネジメントについては学校MM、エコ通勤MM、観光客向けMM、更なるオーナーサポーター獲得への取組を実施する。	
			89												
バス停オーナー・サポーター等協賛金の額	0	千円	20	60	460	460									
			400												